

昨年は「V字回復」の年だった。極細の糸を織った軽量素材が世界のファッション業界でブームとなり、リーマン・ショックで落ち込んだ受注を一気に取り返した。

時流に乗る

「数年前から開発を続けてきた結果でしょうか。ダウンジャケットを中心に採用され、うまく時流に乗りました」。工場は昨年3月からフル稼働が続き、今夏までは受注でいっぱい。国内外から受注が舞い込み、協力



軽量素材など得意分野をさらに磨きたい

三つの「新」で

世界に挑む

丸井織物社長

宮本 徹氏



企業にも外注して対応している。

ただ、洋服のトレンドは移ろいやすい。

「軽量素材のブームは、少なくとも1年は続くと見えています。けれど、そ

の後は正直分からない。今のところ新興国の工場で、同じ水準の生地は織れないようだ。業界の歴史を振り返れば、必ず安価な類似品が市場に出現する。それまでに次の一手を練らなければならない。

「だから、今年のキーワードは「攻め」。昨年は

個人的な挑戦は？ シム通い。会社はコスト改革で絞りましたが、自分はシムをきぼった分、無駄な肉が付きまじった。

回復途上でコスト改革を徹底したが、今年はギアを入れ替える。

「新技術、新商品、新商流の三つの『新』で世界に挑みます」。軽量素

「昨年つかんだ手土産をどう生かしていくか。言葉だけでなく、社員が一丸となって成長できる年にしたい。」

1月から、社内で「ありがとうカード」を始めた。感謝の心を示したい人がいれば、気持ちを書いてカードを渡す。「忙しくなると人間関係がぎくしゃくしてしまう。そんな中で、ホッとできるツールです」。人となりが分かれば、さらに団結できるはずだ。

感謝の心を

材の次を担う新技術、新商品の開発を進め、世界に進出するファストファッションやスポーツのブランドと連携を強める。縮小していくであろう国内市場にとどまらず、海外での存在感を高めた。



みやもと・とおる 石川県中能登町(旧鹿島町)生まれ。1975年慶大工学部卒。日産自動車勤務後、77年に丸井織物入社。専務を経て99年から現職。58歳。

◆丸井織物(石川県中能登町) 衣料、産業資材織物の製造販売。1937年、グループ企業の宮米織物が創業。56年、丸井織物設立。2010年12月期の売上高は約53億円。